

## E-11 住宅の設備志向と設備コア II

大阪市大家政 上林 博雄  
○北浦かほる

1. はじめに：設備が、住宅の中で、注目の的となっている現在、その量産化も又重要課題の1つである。そのためには、設備志向及びその程度を究明し、分類整理する必要がある。

2. 設備志向調査：(その1)にひきつづき、住宅の台所、給湯、暖冷房設備及び、必要設備の順位について、現状及び主婦の要求と関心度を調査した。

台所設備では、ダブルシンクと換気扇に志向がうかがわれた。オーブンは所有率に比して、使用率が低い、食生活の洋風化から、将来の必要性はある程度推測される。

給湯設備については、ない家は31.6%と割合少なく、湯の欲しい順位は、台所、洗面所、洗濯場、浴室の順となっている。

暖房については、『家中暖房したい』のが42.6%もあるのに比べ、冷房は、『特定の室のみ冷房したい』が主流を占めている。

必要設備順位は、水洗便所、給湯設備、暖房設備、冷房設備、皿洗機の順になっている。

3. 設備コアのランク分け：住宅設備に対する要求は、居住者側の諸々の条件によって異って来るので、その様々な要求に応じた設備コアを考える必要がある。そこで志向調査の結果をもとに、量産化、工業化を前提に、要求設備及びその要求度を整理し、表のように、設備コアのランク分けを試みた。(表一発表時図示)

おわりに：設備コアについては、住生活学の面からも検討し、居住者側からの解析をも行なう必要があると考えられる。